

生徒と保護者と先生の共育ニュースレター

Growing

January 2016
Vol. 41
毎月10日発行

【今福教室】
城東区今福西 2-9-20
TEL.06-6934-4662

【今福第2教室】
城東区今福西 2-16-8
TEL.06-6931-2000

【諸口教室】
鶴見区諸口 4-14-9-1F
TEL.06-6912-3984

【関目教室】
城東区関目 4-6-17-2F・3F
TEL.06-6934-8117

【今津教室】
鶴見区今津南 1-6-2-1F
TEL.06-6167-9722

【古市教室】
城東区古市 3-21-8
TEL.06-6931-0467



下村元文部科学大臣の講演を聞いて

高木 秀章(塾長)



新年明けましておめでとうございます。今年もどうぞよろしくお祈りします。中学3年生は私立入試まで1カ月。ここからは体調管理

が重要です。風邪をひかないように手洗いがいい、早寝早起きを徹底しましょう。特に受験は朝から実施されます。早起きして、朝型に変えるようにしましょう。

年末、下村元文部科学大臣の講演を聞く機会がありました。講演の内容を次に簡単にまとめておきます。

「国際化がますます進む中で、世界の大学の入学基準を持つ国際バカロレア (IB) のプログラムを実施する学校を平成30年までに200校まで増やす計画です。その中で心配されているのが、優秀な学生が海外の大学に流出してしまうことです。そして、それはすでに始まっています。大学も世界競争の時代、生徒達も大学も世界競争。そんな時代が目の前に来ています。

また、IT技術の進歩による『自動化』は深刻です。このままIT技術が進み続けられれば、今後10年～20年で約60%の仕事が自動化され、しかも労働時間が今の3分の1になる社会が来ます。そして、自動化された分の新しい仕事が生まれる可能性は低いと考えられます。

しかも、日本は世界でも類を見ないスピードで就労者人口が減っていく。まさに、日本は沈もうとしている船です。

このような状況を乗り越える唯一の方法は『教育』しかありません。教育の力で、今までの5倍も10倍も生産性を挙げられる人材を作る。そんな教育制度を作っていくしかありません。海外の人達からは、日本の優れた入試制度をなぜ変更する必要があるのかと問われることもあります。私はそのような状況ではないと考えています。」と話されていました。

他、具体的な教育改革の内容などを話されていましたが、印象的だったのは質疑応答で「下村大臣がお辞めになられて、それでも2020年の大学入試制度改革は予定通り実施されるのでしょうか」という問いに対して「やらなければ日本はダメになります」ときっぱり言われたことです。元大臣の強い信念を感じた瞬間でした。

新しい入試制度では、今までの学習内容である「知識」や「技術」を組み合わせで適正解を求める「活用力」を問う問題や、「主体性」「多様性」「協働性」という社会を生き抜く姿勢が身に付いているかを確認するために小論文、プレゼンテーション、面接などの試験が実施されます。この講演会でも、様々な先生達がこれらの力を身に付けさせるための指導方法として、アクティブラーニングの実践報告を行っていましたが、カイチでは、むしろ学力の基礎である「読解力」や「作文力」の育

成を徹底させたいと考えています。評価制度が絶対評価になったことで、内申点の差はつかなくなり、入試本番での点数が合否を分けるようになります。そして、入試本番での差を生むのが「活用型の問題」です。現に、大阪市統一テストの結果では、知識型の平均点に比べ、活用型の平均点が大きく下回りました。活用型の問題とは複数の文章を要約し、自分の考えや意見をまとめる形式の問題が多いことから、「読解力」や「作文力」のような学力が問われます。おそらく、今後は定期テストなどにも「活用型」の問題が出題されるようになり、地力のない子は努力しても成績が伸び悩むことが予想されます。

そのように考えますと、小学生低学年からの読書習慣は、非常に重要です。カイチでは、新年度から、「小学生で読んで欲しい50冊」や「中学生で読んで欲しい50冊」などの推薦図書を挙げるとともに、それを使ったディベート形式の授業、活用力を見据えた要約トレーニングや活用力講座なども実施します。

また、英語の取り組みとしては、小学部の授業に英語の導入、年長さんからの英会話コース「トーキングキッズ」も3月から開講いたします。

時代がいくら変わろうと、私達の「受験を通して、子供達に自分を信じ、努力と工夫を続ける姿勢を身につけさせる」という姿勢が変わることはありません。未熟で至らない私達ですが、私達のできる努力と工夫を続けたいと考えております。どうぞ宜しくお願いします。



CLASSROOM REPORT 教室レポート

「カイチに通わせて良かった」
そんな教室を目指して。

坪田 陽一（諸口教室）



教室長の坪田です。今の諸口教室の様子を部門ごとにお伝えします。

＜珠算部＞

この原稿を書いている時点では、12月12日開催の競技会に向けて練習の真っ最中。私はいつも隣の教室でパスカルキッズの指導をしています。この時期はいつも増して指導に熱が入っているようです。小田先生や須田先生が読み上げる声や指導する声、また子供達が一生懸命そろばんをはじく音。教室全体が勝利に向かって一つになっているように感じます。

また、高木直也先生は、今回競技会での読み上げデビュー！間違えたら大変なので、毎日のように隣で「〇〇円なーり、△△円なーり・・・」とひたすら練習しています。この文章が皆さんの目にふれる頃にはすでに結果が出ているわけですが、子供達も高木先生も、練習の成果を存分に発揮してほしいと思います。

＜パスカルキッズ＞

ちょっと子供達がだれてきたと感じたとき、よくしているのが「なんちゃって実況中継」。目の前の子供達の様子を、アナウンサーのマネをして実況中継しています。「〇〇君、どうやら集中力が切れてしまったようだ、手が止まっているぞー」「あと一問、あと一問のところまで△△さん力尽きてしまったかー」「おっと、〇〇君、再び鉛筆を手にとった、いよいよ逆襲か・・・。くだらないことではありますが、単純に「集中しなさい」などというよりは効果的で、子供達もニコニコしながらもう一度頑張りが出ることが多いです。このように子供達の集中力をもたせたりやる気を引き出したりする工夫を絶えず考えながら指導しています。その方が先生としても楽しんで指導できます。

＜小学部＞

算数でみんな楽しみにしているのが「難問」の時間。この日は普段と違い、一枚だけプリントを渡して、その中の問題を解いてもらう時間となります。マッチ棒パズルから中学入試問題まで、解けそうで解けない難しい問題が並んでいるので、みんな知恵を絞って解いて持ってきます。先生はそれにひたすら〇×をつけるだけ。〇がいたら点数券がもらえ、×ならもう一度もどって考え直す、その繰り返しです。全体にヒントを出す場合もありますが、基本的に先生は教えません。そんな不親切な授業ですが、子供達は熱中して問題に取り組みます。点数券がほしいから、ということもあるでしょうが、やはり考えることが楽しいからだと思えます。解けても解けなくても充実した顔で帰っていきます。また、こういう時に普段目立たない子が最初に正解したりすると、一躍ヒーローとなります。診断テストで上位の子が先を越されたりすると悔しがって本気で解き始めることもあります。そんな逆転現象が見られるのもこの時間ならではの、こういう時間で考えることの楽しさを感じてもらえたらと思います。

＜中学部＞

中3生は入試に向かって最後の追い込みの時期。毎日午後2時にはちらほら自習室に始まります。夜には40席近くある自習室がほぼ満員御礼。授業の合間の休み時間は質問ラッシュで対応が追い付かないほど。特に上位校を目指す特進の子達は暇さえあれば塾に来て勉強しています。これらの努力が報われるように、全員の志望校合格を目指して残りの期間を共に走り抜けていきたいと思えます。

中1、2については、中3に比べたらまだまだノンビリしたのですが、1月中旬には学

校で「チャレンジテスト」があります。また塾においては冬期講習明けの模試の結果をもとに標準と特進のクラス替えを行います。そんな話をしながらもう一度気を引き締めて勉強に取り組んでもらうように意識づけをしています。

＜個別指導＞

昨年10月に立ち上げてから約1年。現在中1から高2まで30名近くの生徒が受講しています。勉強の苦手な生徒が多い中、奮闘してくれているのが山田先生、安積先生、山下先生です。一人一人の学習内容の把握や質問対応はもちろん、声をかけて学習に対するモチベーションを上げたり、叱咤激励したり。学生なので本業である大学の勉強も忙しい中、9時間自習にも来てもらいました。成果は生徒によりけりといったところですが、彼らの努力をきちんと結果につなげられるように、こちらサポートしていきたいと思えます。

最後に蛇足ですが、先日私の娘の通っている塾で、懇談がありました。同業者ということでは娘がばらしてしまっていたので、相手の先生も相当やりづかったとは思いますが、懇切丁寧にお話をしてくださいました。まだ若い先生でしたが、我が子のことを真剣に考えてくれていることが伝わってきて、「この塾に通わせてよかった」と思えました。

翻って諸口教室。生徒数は増えていますが、全ての保護者の方に「カイチに通わせてよかった」、そう思ってもらえているのか、と考えると、まだまだ自分の力不足を痛感します。お預かりしたお子様の可能性を信じ、それを開花させてあげられるように、今後とも精進していきたいと思えます。

Education



KAICHI'S ACTIVITY カイチの教育

新学年、 英語指導に力を入れます!

熊谷 周作 (関目教室)

「世界で通用する学力」を身につけさせるため、大学受験がガラッと変わります。あわせて小学・中学・高校の教育も一新されます。特に一変されるのが英語教育で、これからは読み書きや計算と同じように英語が話せることが当たり前の時代になってきます。2020年を目指して小学校高学年では英語が正式教科になり、中学校では英語の授業は日本語を用いず、英語のみで授業が行われ、さらに高校ではディスカッションや発表などをする高度な英語力が求められるようになります。2015年度の中学入試に英語を導入した学校は首都圏だけでも30校以上あり、今後関西でも増えていくと予想されています。また高校入試ではリスニングとライティングの問題の割合が大きく増え、さらに問題文も英語で出題されるようになります。こうした英語教育の改定に伴い、カイチでも新学年から英語の指導に力を入れていきます。

●トーキングキッズの開講!

通常の英会話レッスンのように先生と一緒に決まったフレーズを言い合い、ゆっくり楽しく進めていくレッスンではなく、ネイティブスピーカー並みの早さでフルセンテンスの質問と答えを繰り返し、日本語に翻訳する時間を与えず、英語を英語で考えて理解する英語脳を作り上げる教授法を取り入れます。長文を話すことで英語を話す積極性が付き、文法を知らなくても英語が話せるようになっていきます。この教授法をカラムメソッドといい、世界29か国、約4000校で採用されている画期的な教授法で、カイチはその子供版のトーキング・キッズの大阪初の認定校となりました。トーキング・キッズで学習した生徒のほとんどは児童英検のブロンズ・シルバー・ゴールドへと到達し、小5で英検4級を取得する子もいます。トーキングキッズでは、嫌でもたくさん話さなければならない少し厳しめのカラムメソッドと、楽しい英語アニメ動画や絵本、文字の音とルールを学ぶフォニックスなどを組み合わせたメリハリのあるレッスンを提供します。このトーキングキッズは3月より全教室で年長～小3を対象に開講します。

●カイチ小学部でも英語の授業がスタート!

4年生～6年生の小学部の授業にも3月より英語を導入します。使う教材は圧倒的な支持を受けているNHKの基礎英語シリーズです。今回の英語導入にあたり、昨年の春から様々な英語教材にあたりましたが、この基礎英語シリーズがクオリティーが高く、楽しく、中学英語に準拠しているという面でダントツでした。毎回、英語の授業は小学部の授業の最初で行います。この教材でテンポ良く元気に発音することで、他の教科の集中力も高まりそうです。実は今回の導入にあたって、春先から塾長の家で、モニターとして実際にこの基礎英語シリーズを奈穂子先生と息子さんと勉強してもらうことになりました。奈穂子先生に感想を聞くと「話がストーリーになっていておもしろい。また、発音だけでなく、しっかり書くトレーニングも入っているので、中学英語を忘れていた自分には最適。親子でやっているとは最初は発音をするのが恥ずかしかったけど、今では楽しんでやっています。」とおっしゃっていました。実際、小学校の間で中学2年内容まで進みますので、しっかり先取り学習もできます。小学部の皆さん、ぜひ楽しみにしてください。

今後は外国人観光客が増え、TPPの影響で外国人労働者も増えてきます。日本にいても英語を話さなければならない国際社会がすぐ目の前にきています。クラスメイトや会社の同僚、結婚相手が日本人とは限らない世界へと突入するのです。英語を勉強していくと視野が広がり、世界が広がります。「勉強の英語」ではなく、「世界を知る1つの方法、手段」として英語を楽しく勉強できるようカイチがお手伝いできたらと思います。



COLUMN: 産休から復帰しました

先生紹介 ▶ マナロ 恭子 (パスカルキッズ上本町教室)



8月の終わりに産休をいただきましたが無事出産を終え、再びカイチに戻ってきました。

2人目が生まれる前から、

「何でも上の子を優先することが大切!」というの、テレビや本で見たり、藤川先生からよく聞いていて心がけていたのですが、これがけっこう難しい。授乳中に自分も牛乳がほしいと言いつつ、絵本を読んでほしいと言ったときは、授乳を中断して赤ちゃんが泣い

ても、上の子の希望を優先するようにしていましたが、仕事も始まり、自分の心に余裕がなくなってきたのか、最近では「ちょっと待って!」と、上の子優先の心構えが薄れてきたように思います。下の子が生まれたときは、ちょうど2歳半で、ご飯もトレーニング箸を使い始め、おむつもやっと取れかかってきたのに、今ではご飯は自分で食べなくなり、おむつもまだまだ取れそうにありません。さらに、お片付けもしなくなりました。お米研ぎや、卵割り、ハンバーグづくりなどが大好きで、遊び感覚でお手伝いをさせていたのも、ゆっくり付き合ってあげることが難しくなってきました。そろそろお勉強もさせたいと思うのですが、なかなか時間が取れません。パスカル☆



キッズのお母さん達に1日30分は勉強を見てあげてください!と言っていますが、それがどんなに大変なことか身に染みて分かりました。来年から幼稚園も始まります。初めての集団生活で、どんなふうになるのか楽しみよりも不安でいっぱいです。仕事をしていても、どんなことも受け止めてあげられる心の広い母親になりたいと思います。

山本の
ちょっと イイ話

TEACHER'S VOICE 山本 英貴 (今福教室)

登山は最高

こんにちは、みなさん。今福教室の山本です。今回のちょっとイイ話はどちらかというと保護者の方向け?かもしれません。というの僕らの趣味、登山についてだからです。登山といっても本格的にテントを担いで山の頂上で何泊かするようなものではなくて、主に日帰り、標高でいうと2000mくらいまでの山に登るのが好きなのですが、こんな軽めの登山でも色々ためになることがあるのです。普通に考えると何の目的もなくただ山頂を目指しひたすら登り続けるだけなのでしんどさを想像するかもしれません。実際しんどいですね。登山はいうまでもなく長時間運動になります。山に登るのに3時間、下りるのに3時間なんてことも普通です。しかし、登山は登山者に様々な恵みを与えてくれます。その中でも最も大きいのはリラックス効果、癒し効果です。登山は日常とはかけ離れた場所

に行くことになるので、見るもの、聞くもの、感じるもの、吸い込むもの、その全てが新鮮に感じます。緑の生い茂った森林や山の上から見下ろす景色、自然のおい、気持ちの良い風など普段の生活ではなかなか味わえない自然を五感で思いっきり堪能できるので、日頃のストレスから解放されます。大自然に身を置くことで精神的なリラックスが得られ、心が穏やかになるのを感じることができます。森林の草木から発せられるフェトンチッドという物質は人をリラックスさせる効果があるのは有名な話です。

また、女性にとってうれしい話なのが登山は「若返り」に効果があると言われます。長時間の有酸素運動になるので体の基礎代謝が上がり、血流がよくなり、細胞が活性化され肌のツヤや血色がよくなる美肌効果が期待できます。さらには足の筋肉を使うため、その疲労した筋肉を修復する際に出される成長ホルモン、通称「若返りホルモン」の分泌を促

すこととなります。登山を継続するとシワやたるみがとれるかも!?しれません。

最後に、やっぱり苦勞をする分、頂上に到達したときに達成感があります。これは子供達にも言えることですが、達成感というのは苦勞の末に得られるものです。クラブの練習然り、勉強然りです。いくつになっても、あることを成し遂げるためにその過程での苦勞はつきものです。その先に待つ達成感はいくらでも忘れさせてくれます。みなさんも登山を…とは言いませんが達成感が得られるように日々何事にも努力しましょう。写真は先日登った兵庫県の千ヶ峰というところ。お天気は曇りだったので少し暗いですが、絶景でした。

カイチからの
お知らせ

- 1月14日(木)は中3学年末模試を実施する予定です。
- 1月16日(土)は小学部12月診断テストの不合格者やり直しを14時~15時30分で実施します。
- 1月29日(金)・30日(土)は小4~中2の診断テストを実施します。
- 2月6日(土)・13日(土)は新年度の入塾説明・テストを実施します。珠算部やパスカル☆キッズより学習部へ入塾をご希望の方はご参加ください。新年度入会特典として教材費5,000円分を無料とさせていただきます。
- 2月14日(日)は珠算1~3級の検定試験です。2月13日(土)は直前練習を行います